

日本人間性心理学会 第41回大会  
奨励賞受賞記念講演

# 「今ここ」にある過去

2022年9月11日  
関西大学

田中秀男

## 本講演の目次

1. 私のジェンドリン研究とその背景
2. 「今ここ」概念の現状と問題
3. 2つの過去
4. 2つの時間軸
5. まとめ

1

2

1. 私のジェンドリン研究とその背景
  - ・ 講演者のこれまで
  - ・ ジェンドリン文献の国内受容
2. 「今ここ」概念の現状と問題
3. 2つの過去
4. 2つの時間軸
5. まとめ

## 講演者のこれまで

ユージン・ジェンドリンがカール・ロジャーズの下で  
仕事を始める前後におこなったリサーチ・理論的考察・  
哲学的思索を探究

ジェンドリンのアメリカ心理学会発表・シカゴ大学内紀要論文・  
学位論文をもとに、当時の着想を時系列で解明

ジェンドリン初期の業績が、のちのフォーカシングの発展に  
及ぼした影響を考察

心理学博士、TIFI認定フォーカシング・トレーナー、非臨床家

3

4

## 2004年、ジェンドリンにインタビュー



「辺縁で考える(TAE)」  
ワークショップに参加  
(2004年ニューヨーク)

ジェンドリン本人に哲学的  
背景についてインタビュー  
(田中, 2005)

Lou (2021) より

5

## ジェンドリン文献の国内受容



体験過程

何を vs いか

4つの位相

統合失調症治療



6つのステップ

(教示法)

実践の集大成



6

## ジェンドリン文献の国内受容

準公刊資料 ジェンドリン(1966) ジェンドリン(1982) ジェンドリン(1998)

体験過程  
何を vs いか

4つの位相  
統合失調症治療

6つのステップ  
(教示法)

実践の集大成



伊藤(2002)  
田中(2004)

7

### 1. 私のジェンドリン研究とその背景

### 2. 「今ここ」概念の現状と問題

- ・ 今ここ (here and now)
- ・ 現状と問題
- ・ ジェンドリンの研究を手がかりに

### 3. 2つの過去

### 4. 2つの時間軸

### 5. まとめ

8

## 今ここ (here and now)

人間性心理学において、伝統的かつ中心的テーマの一つ

例：ロジャーズ派のエンカウンターグループの実践、マズローの自己実現論、ゲシュタルト心理学、フォーカシング、現象学、ボディセラピー

様々な分野が集って語り合うフォーラムを構成するためのベースキャンプ的な役割

(佐々木, 2007, p. 1)

9

## 現状と問題

...ベーシック・エンカウンター・グループに参加した折、比較的指示性の強いファシリテーターから、「過去の話」はしないで、「今ここでの話」をするように促された経験が私にもある。(諸富, 2009, p. 39)

10

## 現状と問題

過去の話

両立し得る？  
両立し得ない？

今ここでの話

今ここの意味は、実践者・研究者間で合意が未形成

11

## ロジャーズの両義的思い

私は、過去の経験についての発言よりも、現在の感情によく反応する。しかし、願わくばそのどちらもがコミュニケーションのなかにあらわれてほしい。「今ここのことだけを話しましょう」というルールを私は好まない。(Rogers, 1970, p. 50; cf. 藤中, 2007, pp. 98-9)

示唆的

- ① グループに限らない汎用性
- ② ロジャーズ個人の経験則に終始

12

## ジェンドリンの研究を手がかりに

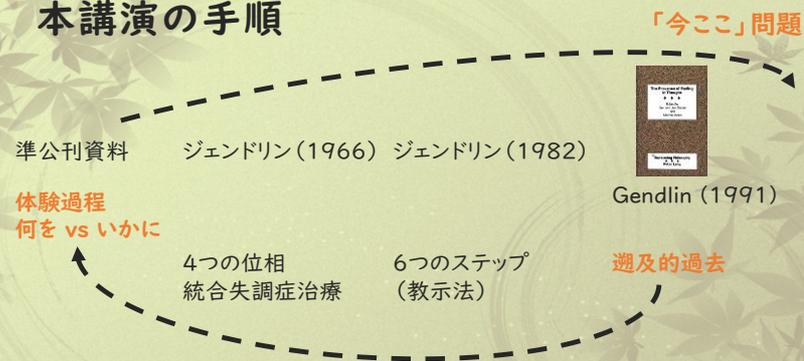
「今ここ」概念を精査する一助として、ジェンドリンによる

- ・フォーカシング提唱**前**の研究結果
- ・フォーカシング提唱**後**の哲学的思索

を統合した考察を提示

13

## 本講演の手順



14

1. 私のジェンドリン研究とその背景
2. 「今ここ」概念の現状と問題
3. 2つの過去
  - ・ 初期の心理療法リサーチ
  - ・ 想起的過去と遡及的過去
  - ・ 遡及的過去の哲学的背景
  - ・ 実践への適用
4. 2つの時間軸
5. まとめ

15

## 初期の心理療法リサーチ (Gendlin et al., 1957; 1960)

治療の成功と相関 ✕

どの程度まで問題は過去に  
焦点を当てていたか？  
(幼少期あるいは青年期)

何を話すか

治療の成功と相関 ○

どの程度クライアントは自分の  
感情について話すのか  
どの程度クライアントは自分の  
感情を表現するのか

(Gendlin et al., 1960, p. 211)

いかに話すか

(Gendlin, 1963, p. 4)

16

## いかに話すか

「昨晚怖かったです」  
その当時どう感じたかを**報告**

「今になってわかるんです、昨晚どれだけ本当に怖かったかってことが」  
今まさにどう感じているかを**表現**

(Gendlin et al., 1960, p. 211)

17

## 表現

内容に関しては、過去の出来事でもよく、例えばかなり前の出来事について今まさに悲しみを強く体験していることでもよい。(Gendlin et al., 1968, pp. 222-3)

幼少期の出来事でもかまわない

18

## 2つの過去

後年の哲学論文における**過去**の場合分け

過去は2つあり、「だった(was)」という言葉の使い方は2通りに働きうる。1つは**遡及的過去**で、含意されたことの推進が起こることから作られる。もう1つは**想起的過去**で、リニアな軌跡上で我々の背後にある。(Gendlin, 1991, p. 65)

2通りのwasの働き方を、初期リサーチの発言考察に適用

19

## 初期リサーチ論文におけるwas

「昨晚怖かったです (I **was** scared last night)」

「今になってわかるんです、昨晚どれだけ本当に怖かったかってことが (It comes to me now how scared I really **was** last night)」

(Gendlin et al., 1960, p. 211)

内容は昨日の出来事で同一

後年のジェンドリンに依拠すれば、上記2つのwasは、「混同されやすい」が「全く同じではない」(Gendlin, 1991, p. 65)

20

## 想起的過去と遡及的過去

### 想起的過去 (remembered past)

既に出来上がった静止の内容の**報告**。今の実感とはかわりなく、常に同じ。昨晚の「怖かった」から他の何かへ変化する見込みは今後もない

### 遡及的過去 (retroactive past)

当時も何かを感じていたのかもしれないが、今になって「怖かった」と初めて**表現**される。いずれは「いや、むしろ**途方に暮れたんだ**」と別の形で語られる可能性も

(田中, 2016, p. 110)

21

## 遡及的過去の国内先行研究

### 遡及的過去に相当する発想

言いたいことが言えたから胸のつかえがとれたのではなく、胸のつかえが取れたことによって、それが言いたいことだったとわかる(近田, 2002, p. 59)

⇨ 推進された**だった** (Carried forward was)

「あ、いま、やっと**なんだった**かわかった! 私はずっと今まで彼女を恐れていたんだ!」(Ikemi, 2017, p. 167)

概念として遡及的過去が明示的に使用されたのは、三村(2009)の哲学論文が初

22

## 遡及的過去の哲学的背景

プラグマティズムの哲学者、ジョージ・H・ミードの『現在の哲学』より

現在のただなかで創発的事象(the emergent)が生じると、過去は、創発的な観点から見直され、そうして異なる過去になる。(Mead, 1932, p. 2)

ジェンドリンの『フォーカシング指向心理療法』より

現在が過去に新しい機能、新しい役割を与える。新しい役割の中で、過去は異なって「切り取られる」。過去が異なって解釈されるだけでなく、むしろ、新しい現在において異なって機能する。(Gendlin, 1996, pp. 14-5)

23

## ラグビーのパス



24

## 2つのwas、実践への適用

相手がフェルトセンスを過去形で話すようになったとき...は、ただ「今もそんなふうな感じですか」と質問してください。そうすれば、現在のからだに戻ることができます。（「はい」という答えになるかもしれませんが、「いいえ、今の感じは...」となるかもしれません。）（コーネル, 1996, p. 113）

昨夜怖かったのです

想起的過去

必要

今になってわかるんです、昨夜どれだけ本当に怖かったかが

遡及的過去

不要

25

1. 私のジェンドリン研究とその背景
2. 「今ここ」概念の現状と問題
3. 2つの過去
4. 2つの時間軸
  - 体験と体験過程
  - 2つの時間軸の提示
  - ロジャーズの「今ここ」再解釈
  - F.パウルズ読解
5. まとめ

26

## 体験と体験過程

ふさわしい用語に恵まれなかったがために、**現在の体験 (present experience)**こそ大切なのだというロジャーズの見解はあちこちで誤解されてきた。クライアントは過去の体験に取り組む必要などないのだという意味にとられてきたのである。

ロジャーズの見解をそのようにとると、彼の言う現在とは、概念的な内容のことを指すのだということになってしまう。ロジャーズは誤解され、クライアントは現在の生活の内容だけに取り組めばよいのであって、幼少期の体験に取り組む必要などないと言いたかったかのように受け取られてしまっている。

27

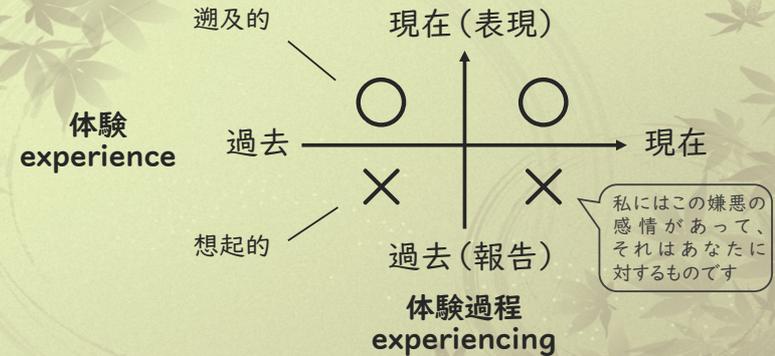
28

## 体験と体験過程

だが、ロジャーズが言いたかったのは、取り組む概念的な内容が過去のものであろうと、現在のものであろうと、クライアントは**現在の体験過程 (present experiencing)**を通してだけ、うまい具合に問題に取り組むことができるということなのである。(Gendlin, 1958, p. 13; Gendlin, 1962, pp. 237-8)

29

## 2つの時間軸

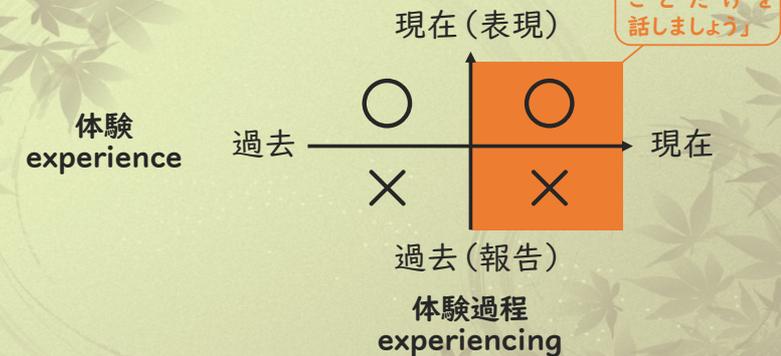


30

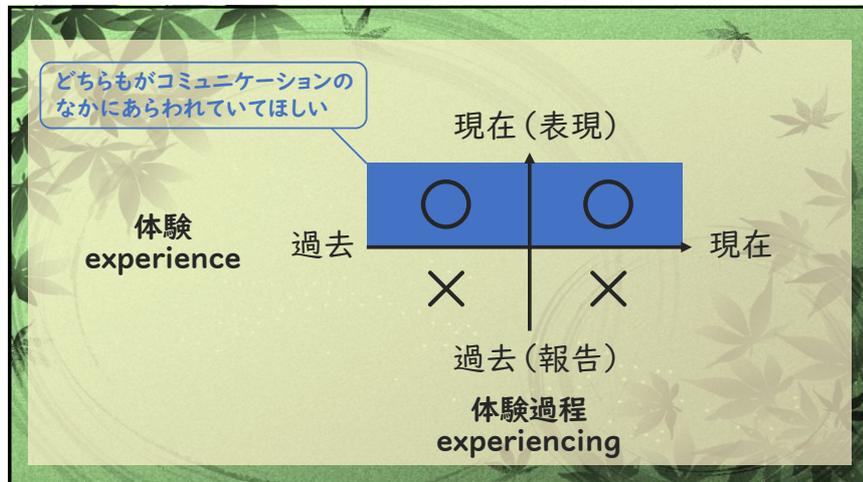
## ロジャーズの「今ここ」再解釈

私は、過去の経験についての発言よりも、現在の感情によく反応する。しかし、願わくば**そのどちらもがコミュニケーションのなか**にあらわれてほしい。**「今ここのことだけを話しましょう」**というルールを私は好まない。(Rogers, 1970, p. 50)

31



32

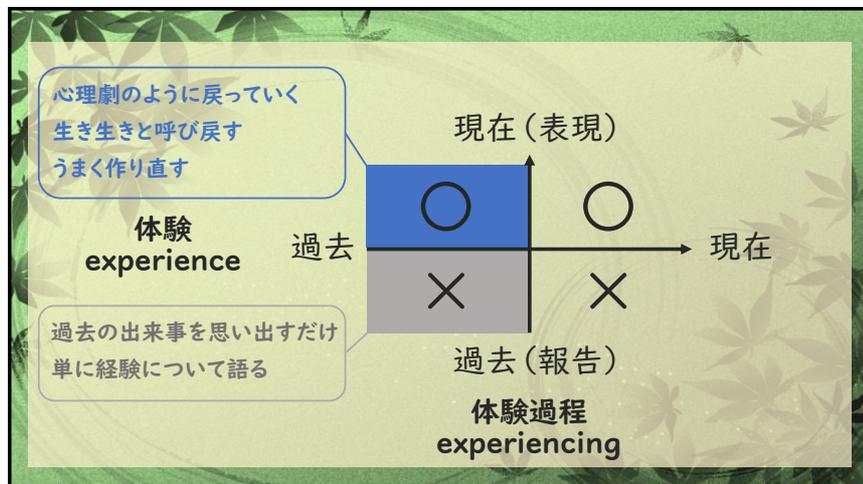


33

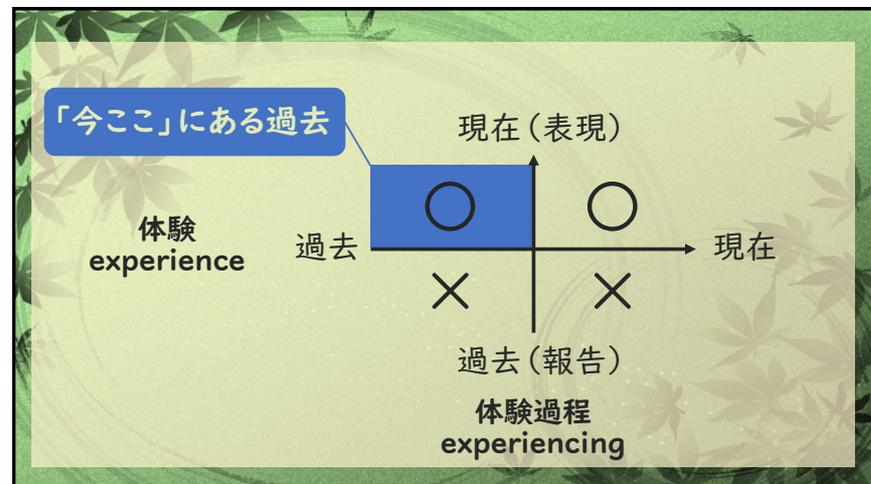
### F. パールズ読解 ‘Here and now therapy’の章より

過去の出来事を思い出すだけでは不十分で、その出来事へ心理劇のように戻っていく必要がある。... 経験の記憶、つまり単に経験について語ることは、経験を過去の堆積物として放置することであり、ポンペイの遺跡と同じくらい生気を失っている。経験をうまく作り直す機会は残されているのに、生き生きと呼び戻さないのである。(Perls, 1973, pp. 65-6)

34



35



36

1. 私のジェンドリン研究とその背景
2. 「今ここ」概念の現状と問題
3. 2つの過去
4. 2つの時間軸
5. まとめ
  - ・ 「今ここ」の捉え直し
  - ・ 研究スタイルとしての遡及的過去

37

## 「今ここ」の捉え直し

ジェンドリンは、ウィスコンシンで統合失調症治療に従事する前の時点で、のちのフォーカシングを支えるリサーチに着手していた

彼の初期の研究結果と後年の哲学的思索を統合的に考察すれば、人間性心理学における「今ここ」の重要性を議論するための一つの指針を与えることになるだろう

38

## 「今ここ」の捉え直し

- × 「過ぎたことを蒸し返したって仕方がない」と一律に断定
- 過去の出来事によって現在や未来が既に決まってしまうという考え方への反論  
過去の出来事を現在の体験過程を通して意味づけ直ししていたら、「今ここ」を大事にしている

39

## 研究スタイルとしての遡及的過去 「今ここ」問題

準公刊資料

体験過程  
何を vs いか

Gendlin (1991)

遡及的過去

40

## 文献

近田輝行 (2002): フォーカシングで身につけるカウンセリングの基本: クライアント中心療法を本当に役立てるためにコスモス・ライブラリー.

アン・ワイザー・コーネル(著) 大澤美枝子・日笠摩子(訳)(1996): フォーカシングガイド・マニュアル 金剛出版.

藤中隆久 (2007): 「いま,ここ」の心理療法に関する考察: 現代武道と古武道との比較を手がかりとして 人間性心理学研究, 25(2), 97-104.

41

Gendlin, E.T. (1958): The function of experiencing II. Two issues: Interpretation in therapy; Focus on the present. *Counseling Center Discussion Paper* (University of Chicago), 4(3), 11-5. Retrieved from [http://previous.focusing.org/gendlin/docs/gol\\_2034.html](http://previous.focusing.org/gendlin/docs/gol_2034.html)

Gendlin, E.T. (1962): *Experiencing and the creation of meaning: A philosophical and psychological approach to the subjective*. Evanston, IL: Northwestern University Press. ユージン・T・ジェンドリン 筒井健雄 (訳) (1993): 体験過程と意味の創造 ぶっく東京.

42

Gendlin, E.T. (1963): Process variables for psychotherapy research. *Wisconsin Psychiatric Institute Discussion Paper*, 42. Retrieved from [http://previous.focusing.org/gendlin/docs/gol\\_2128.html](http://previous.focusing.org/gendlin/docs/gol_2128.html) ユージン・T・ジェンドリン 村瀬孝雄 (訳) (1966). 心理療法研究のための過程変数 村瀬孝雄 (編) 体験過程と心理療法 牧書店. 3-18.

ユージン・T・ジェンドリン 村瀬孝雄 (編) (1966): 体験過程と心理療法 牧書店.

43

Gendlin, E.T. (1981): *Focusing*. 2nd ed. New York: Bantam Books. ユージン・T・ジェンドリン 村山正治・都留春夫・村瀬孝雄 (訳) (1982): フォーカシング 福村出版.

Gendlin, E.T. (1991): Thinking beyond patterns: Body, language and situations. In B. den Ouden, & M. Moen (Eds.), *The Presence of Feeling in Thought*. New York: Peter Lang. 21-151. Retrieved from [http://previous.focusing.org/gendlin/docs/gol\\_2159.html](http://previous.focusing.org/gendlin/docs/gol_2159.html)

44

Gendlin, E.T. (1996): *Focusing-oriented psychotherapy: A manual of the experiential method*. New York: Guilford Press. ユージン・T・ジェンドリン 村瀬孝雄・池見陽・日笠摩子 (監訳) (1998): フォーカシング指向心理療法(上) 金剛出版.

Gendlin, E.T. & Zimring F. (1955): The qualities or dimensions of experiencing and their change. *Counseling Center Discussion Paper* (University of Chicago), 1(3), 1-27. Retrieved from [http://previous.focusing.org/gendlin/docs/gol\\_2139.html](http://previous.focusing.org/gendlin/docs/gol_2139.html)

45

Gendlin, E.T., Jenney, R.H. & Shlien, J.M. (1957): Counselor ratings of process and outcome in client-centered therapy. *Counseling Center Discussion Paper* (University of Chicago), 3(15), 1-13.

Gendlin, E.T., Jenney, R.H. & Shlien, J.M. (1960): Counselor ratings of process and outcome in client-centered therapy. *Journal of Clinical Psychology*, 16(2), 210-3.

46

Gendlin, E.T., Beebe, J., Cassens, J., Klein, M., & Oberlander, M. (1968): Focusing ability in psychotherapy, personality and creativity. In Shlien, J.M. (Ed.), *Research in psychotherapy*. 3. American Psychological Association. 217-41. Retrieved from [http://previous.focusing.org/gendlin/docs/gol\\_2049.html](http://previous.focusing.org/gendlin/docs/gol_2049.html)

47

Ikemi, A. (2017): The radical impact of experiencing on psychotherapy theory: An examination of two kinds of crossings, *Person-Centered & Experiential Psychotherapies*, 16(2), 159-72. Retrieved from <https://doi.org/10.1080/14779757.2017.1323668>

伊藤義美 (2002): フォーカシングの実践と研究の発展. 伊藤義美 (編) フォーカシングの実践と研究 ナカニシヤ出版 3-16.

Lou, N. (2021). *Gene's TAE trail 6: Amazing space arrangement: Ordinary & spiritual crossing*. Retrieved from Nada Lou official YouTube channel <https://youtu.be/34rJIEIDxbg>

48

Mead, G.H. (1932): *The philosophy of the present*. Chicago: Open Court. ジョージ・H・ミード (2018): 現在というものの哲学 植木豊(編) G・H・ミード著作集成: プラグマティズム・社会・歴史 作品社 605-97.

三村尚彦 (2009): ジェンドリンとポストモダニズム: プロセスの論理 關西大學文學論集, 59(3), 1-26.

諸富祥彦 (2009): フォーカシングの原点: その哲学の基本的特質及びロジャーズとの関係 諸富祥彦(編) フォーカシングの原点と臨床的展開 岩崎学術出版社 3-41.

49

Perls, F. (1973): *The gestalt approach & eye witness to therapy*. Ben Lomond, CA: Science & Behavior Books. フリッツ・S・パールズ 倉戸ヨシヤ (監訳) (1990): ゲシュタルト療法: その理論と実際 ナカニシヤ出版.

Rogers, C.R. (1970): *Carl Rogers on encounter groups*. New York: Harper & Row. カール・R・ロジャーズ 島瀬稔・島瀬直子 (訳) (1973): エンカウンター・グループ: 人間信頼の原点を求めて ダイヤモンド社.

佐々木英和 (2007): 特集「いま、ここ」は、「いつから、どこへ」行った?」の編集にあたって 人間性心理学研究, 25(1), 1-3.

50

田中秀男 (2004): ジェンドリンの初期体験過程理論に関する文献研究(上): 心理療法研究におけるディルタイ哲学からの影響 図書の譜(明治大学図書館), 8, 56-81. Retrieved from <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/8693274>

田中秀男 (2005): “待ってくれる”人、ジェンドリン: 30分の幸福な面会時間を振り返って. The Focuser's Focus: 日本フォーカシング協会ニュースレター, 8(1), 4-6. Retrieved from [https://note.com/hideo\\_tanaka/n/na65a85b1ba81](https://note.com/hideo_tanaka/n/na65a85b1ba81)

田中秀男 (2016): ジェンドリンの心理療法研究における過程変数. 心理学叢誌(関西大学大学院心理学研究科), 16, 105-111. Retrieved from <https://hdl.handle.net/10112/13413>

51